諸声上げよ 意気高く もろごえあ 百十伝わる 篝火よ 蔦壁照らす 赤き火はったかべて あか ひ

寮友に負けじと 先へ行けと もっぱい

汽笛が街 星降る北は を 切り裂けば 赤き空 き さ

君よ恵迪 北の星 たえ 轟き 廻る酒 でえ 轟き 廻る酒

炬燵布団で 蠢くは

その身醜、 君が心よ清からん 明ぁ 日す で夢見る < 若学者 あったとて

> 一振り天を 靄こめ朝日 君ぞ苦難の 赤 き 槍 望みなれ 割りたまえ 朝き ぼらけ

0)

二百の階段第一歩にひゃく かいだん だいいっぽ 君忘るるなその心 新たら Ŧi. き 日 º . . 々 び 朝 は 来 た

笑え載なれ